

## 福井市足羽川河川敷におけるタコノアシの分布の現状

渡辺定路・中村幸世・安達幸二・井上美代子・源野みね子・幸谷昭子・谷屋友江・初田利雄

Actual distribution of *Penthorum chinense* in the riverbed of Asuwa River, Fukui City

Sadamichi WATANABE\*, Sachiyo NAKAMURA\*\*, Kouji ADACHI\*\*\*, Miyoko INOUE\*\*\*, Mineko GENNO\*\*\*,  
Akiko KOUDANI\*\*\*, Tomoe TANIYA\*\*\* and Toshio HATUDA\*\*\*

キーワード：タコノアシ，絶滅危惧植物，足羽川

タコノアシ *Penthorum chinense* (写真1) は、福井県では絶滅危惧 I 類に指定されているユキノシタ科の植物である(福井県, 2004)。河川の低水敷や湿地などに生育し、県内では足羽川と日野川の河川敷で確認されているものの(渡辺, 2003)、個体数も少なく生育はまれであった。

足羽川においては、桜橋周辺の河川敷と泉橋上流の河川敷で本種が確認されていたが、1989年までの河川敷の整備により、桜橋周辺では本種を確認できなくなった(渡辺, 2003)。しかし、2004年7月の福井豪雨以降、足羽川河川敷の広範囲において本種を複数個体確認することができるようになった。

足羽川河川敷において、本種の分布状況を調査した結果を報告する。

調査地は、足羽川に架かる幸橋から大瀬橋までの河川敷の左岸・右岸各約3,500 mの区間とした。幸橋から桜橋、桜橋から九十九橋、九十九橋から花月橋、花月橋から新明里橋、新明里橋から水越橋、水越橋から大瀬橋の6区間において、区画内を踏査して本種の個体数を計測した。調査日は2007年10月12日、同年10月13日、2008年10月14日、同年10月20日の4日間である。なお、本種の茎の基部は地中にあり、大きい個体は普通基部から数個の走出枝を出す。個体保護のため掘り起こしは行わず、地上部の茎数を計測した。

調査の結果、確認できた個体数は2007年10月12日、同年10月13日の2日間で約500個体、2008年10月14日、同年10月20日の2日間で約4,000個体であった。特に足羽川左岸の花月橋から水越橋までの区間において本種の個体数の激増が顕著であった。幼植物(写真2)が群生している場所もあり、今後も個体数が増える傾向といえる。これは河川工事に伴う掘削・埋め立て等により、本種の埋土種子が移動・発芽したことが主な要因だと考えられるが、本種以外の植物の草丈も伸びて



写真1 タコノアシ



写真2 タコノアシの幼植物

\*〒910-0003 福井県福井市松本4-3-25

\*\*4-3-25 Matumoto, Fukui City, Fukui 910-0003, Japan

\*\*\*福井市自然史博物館 〒918-8006 福井市足羽上町147

\*\*\*Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui City, Fukui 918-8006, Japan

\*\*\*福井市自然史博物館ボランティア

\*\*\*Volunteers of Fukui City Museum of Natural History

きており、それら他植物との生存競争、河川敷の植生管理や河川工事などの人的影響なども視野に入れ、今後、本種がどのように残っていくのかを調査地点を拡充して調べる必要がある。なお、各調査地点の個体数等の詳細については改めて報告する。

#### 引用文献

- 福井県, 2004, 福井県の絶滅のおそれのある野生植物2004 (福井県レッドデータブック) 植物編. 福井, 45p.  
渡辺定路, 2003, 改訂増補 福井県植物誌. 福井新聞社, 165p.